

中等部校長室から生徒・保護者・地域の皆さまへのメッセージ

Future Center of Okayama Korakukan

後楽館のへき地「校長室」からどんな未来が見える？

発行：岡山市立岡山後楽館中学校長 植田 朋哉

〒700-0814 岡山市北区天神町9-24  
e-mail: korak002@city-okayama.ed.jp



# 後楽館未来中心

## 後楽館中等部の「3大特色」を考える

お久しぶりの第3回。

後楽館中等部の「三大特色」について、生徒たちはどのように考えていたのか？現高等部1年生の10期生たちが卒業する直前にアンケートの回答としてこのことに答えてくれました。夏休みをはさんだのでお久しぶりのこの特集。今回が最終回であります。

## 「社会のルールとマナー」が校則であることについて、どう考えていますか？

良いことだと思う

→87%

- ・「当たり前」の事を当たり前「今」の世の中これだよいと思う。
- ・人によっては良くも悪くもできる校則だったけど、自分は良い校則だったと思う。 ・必要以上に縛られることはなかったの、のびのびと生活することができた。 ・社会のきびしさを実感できるのでよいと思う。
- ・社会に出てからすごく大切なことなのであってよいものだと思う。
- ・この校則は、ちゃんと自分で考えないといけないものだったから、社会に出て役に立ちそう。
- ・学校外での活動などでも役だったと思うので、とてもいい校則だと思う。 ・スマートかつ深い。良かったと思う。
- ・わかりにくいこともありましたが、自分たちで創っていくような校則で、良いと思います。 ・社会に出て苦労しないかな、と思った。
- ・とても重みがあるけど、自由なこともできるのでとてもいいと思います。 ・自主自律は大事です。
- ・将来、絶対ルールとマナーを守れる大人になりたいから、このまま校則にしてほしいです。
- ・いいと思うけど、抽象的でわからない人もいるんじゃないかと思う。 ・社会のルールとマナーは、自分でつちかかっていくことにより身につくので、なかなか忘れないと思います。
- ・社会を知ることに、社会のルールとマナーを意識することは社会を知る第一歩だと思います。この校則は守っていくものだと思います。
- ・良いものだったと思う。理由は、細かくて多い校則ではなく、おおまかな「社会のルールとマナー」という校則をつけることによって、自分でルールとマナーを考えるようになるから、社会人になってから必要な力が養われていると思う。
- ・自分自身で中学生としての生活態度や身だしなみを決められることができるので良かったと思う。ただ、なんだかんだいって小さいきまりは結構あったと思う。
- ・大人になって必要となる、大事なことだと思います。大人になって悪い大人になる人もいますが、ルールとマナーさえ守っていれば、悪くなる人も減ると思います。なので、有り！
- ・ルールもマナーも守れていない人もいたのが気になった。大人になってから後楽館の校則の大切さに気づく人もいるのでは。
- ・社会のルールとマナーが校則ということは、あーしなさい、こーしなさい、と具体的に言われることがあまりなかった、ということだと思っています。私は社会のルールとマナーが校則というのは、「自分の行動に責任をもって、自分で考えて行動する」ことだと思っています。
- ・珍しい校則で私自身も気に入ってます。みんなもこれに学んであいさつができる人が多いので、いい校則だと思う。社会に出ても恥ずかしくないような校則だと思う。
- ・よいものでした。断言できます。この校則についての3年間の指導ですが、少なくとも私にとってはとてもためになる学習でした。

良いことだと思わない

→8%

- ・「社会のルールとマナー」が校則なので、社会で許されていることなら何でもOKなんだと思っていたら、ちょこちょこダメなことがあって「なんなんだろう」と思いました。だから校則はほとんど普通の中学校と同じだと思うので、あんまり「社会のルールとマナー」ではないと思います。
- ・よくわからない。どこまでよくて、どこまでいけないのか、とか。
- ・校則を知っていても、どのへんまでなのかあまり理解できていないので、みんなの個性を守りつつ、校則を具体的に決めた方がいいのかなって思いました。
- ・もう少しちゃんとした校則があっても良いと思います。 ・少しわかりにくい。 ・もっとわかりやすくして欲しい
- ・あんまり意味がわからない部分がある。というのが社会のルールとマナーなのか、あまりわからなかった。

どちらとも言えない

→5%

- ・別によいものとも悪いものとも思いません。一人一人の意識の中に社会のルールとマナーがあり、それは個々で違うからです。またそういうことを考えるとこの校風に味があると思います。
- ・校則の意味を理解して実行できていたかという、難しいところがあります。
- ・「ルールとマナー」そして「自主性」の意味を勘違いしている人がいます。その人たちに、校則が何であるかをしっかりと話した方が良いと思います。

後楽館の象徴とも言える校則ですが、生徒の大多数が支持していることがわかります。特にこの校則に基づいて3年間生活してきた10期生の声であることが頼もしい。ただ、「わかりづらい」というのも正直な感想でしょう。（「社会のルールとマナー」を理解しない大人もいるのですから。）6年間追求する価値のあるテーマだと思います。

### What's this? クイズ「後楽館の一部」

↓今年はこちら↓



↓前回の正解です↓  
桃太郎シリーズのひとつ

後楽館の生徒が内山下校舎に移動するときいつも出会う男の子。しるちかの入り口にすわっている「ももたろう」の彫刻です。鬼をやっつけるイメージはなく、かわいらしい三歳児という感じ。これは蛭田二郎（ひるた・じろう）という彫刻家の作品で、この人の桃太郎シリーズは特に有名。城下から岡山駅まで歩く間にいろんな格好の桃太郎数人に出会えます。犬猿キジの像もちゃんとあるから探してみたら？きびだんごの像はない。



### リプレイ the校長話

今回の校長話は、上の記事に関係するものです。でもこの話は生徒の3分の1しか聞いていません。今年3月26日の新入生対象の説明会でお話です。だから1年生の生徒だけが保護者といっしょに全員聞いています。「社会のルールとマナー」は確かにわかりにくい。でもそれを6年間考え続けるのが後楽館の教育です。そのための「第1ヒント」を出したお話でした。直接聞けなかった2・3年生のためのリプレイでもあります。後楽館の校則はむずかしいけど深いイデア。

### 第9話 「社会のルールとマナー」を考える第1ヒント。

来月には後楽館の生徒となる皆さんと保護者の皆さんに、お話ししたいことがあります。オープンスクールでも学校説明会でも必ず話題にしてきた「社会のルールとマナー」という後楽館の校則のお話です。こんな校則をもつ学校はとても珍しい。と言うか多分ほかにはありません。珍しいだけでなくこの校則はとても難しい。なにしろ紙に書いたものがない。いくら書いても書ききれません。自分で考えて、実行していかなければいけないのです。例えば岡山駅前には、いろんな服装や髪型の人歩いています。学生服を着た人もいればファッションモデルみたいな人、作業服の人も背広の人もいます。髪型や髪の色もいろいろです。これが社会の「外見」ですから、それだけを見てこれでいいのかーと思ってしまえば「何でもOK」になってしまいます。そうではない。ここから「考える」という仕事が始まります。今日は、もうすぐ後楽館の一員になる皆さんにヒントをあげましょう。まず、わかりやすくするために言葉を付け足してみよう。

「社会のルールとマナー」 「日本の大人社会が、学生たちに望んでいるルールとマナー」  
これがヒント。このことを後楽館で6年間考えるのです。6年間できっとわかります。今日はさらに特別サービス。もうちょっとヒントをあげよう。「日本の大人社会が学生たちに望むこと」とは何か？  
高校野球が始まりました。春も夏も甲子園は高校球児の汗と涙で熱く燃えます。でも甲子園球場で日頃やっているプロ野球の様子を思い出してみます。打席のバッターは闘志まんまん、でもガムをくちゃくちゃかんでいる。集中力を高めるのにガムは効果的なんだそう。時にはフーセンをふくらませたりする。対するピッチャーはマウンド上で第一球...の前にツバを吐いた。何だかきちゃないぞ。さて、高校野球の選手が甲子園でこれと同じことをやったら世間の人たちはどう思うでしょう。日本の高校野球が常に人気があるのは社会の人たちが、そこに若者の理想像を見ていると思うのです。学生はこうあってほしい。学生がこうであれば日本という国は何とかなる。だから日本の大人社会は、高校球児がグラウンドでガムを噛むこともツバを吐くことも許さないでしょう。ルールもマナーもない情けない大人がいることも確かですが、大多数の日本の大人が保っている秩序でこの国は成り立っています。この大多数の大人が学生に期待するルールとマナーのかなりの部分が、甲子園の高校野球にはぎゅっつとつまっているように思うのです。これがヒントです。今日はここまでです。入学してからこのことを考える機会は山ほどあります。今度は入学式で会いましょう。